

夢中に、なろう。

vol.342

神大スタイル



TOPICS

大学生活を充実したものにする
神大生のリアルな課外活動を調査！
キャンパスライフと両立しながら
さまざまな活動に挑戦する学生の姿を紹介。

CONTENTS

- P1 — SPECIAL
課外活動で広がる世界
- P7 — センパイに会いたい／ゼミ・研究室探訪
- P9 — お国じまん／CLUB ROOMS
- P11 — COLORS "JINDAI BAG COLLECTION"



課外活動

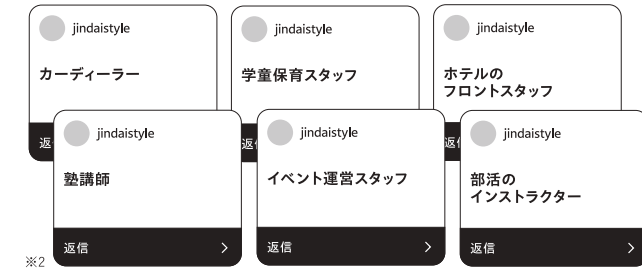
で広がる世界

Q1. アルバイトはしていますか？

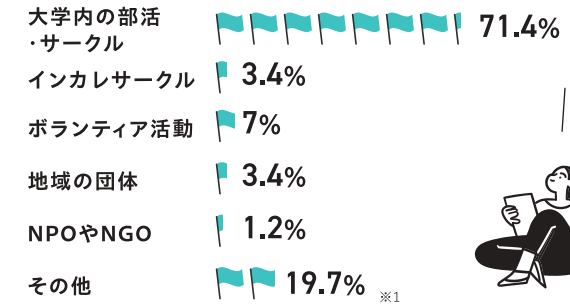
「はい」※1

78.3%

※1 神大生に聞きました！



Q2. アルバイト以外にどんな課外活動をしていますか？



色々な場所で活躍中

【課外活動】…大学での正規の教育活動以外の活動で、学業からだけでは得られない社会とのつながりを得たり、自分自身を高めるためにおこなう活動のこと。

大学生生活をより充実させるアクションのひとつに、課外活動が挙げられます。ほとんどの学生が「アルバイト」「部活・サークル」などの課外活動に取り組んでいると回答し、多くの学生が学業以外のフィールドでも経験を積み、知識やスキルを増やしているようです。

そのなかでも大学生の多くがイメージするであろう課外活動に、まず「アルバイト」が挙げられます。Instagramのアンケート結果を見ると、そのジャンルもさまざま。しかし、選択肢は決してこれだけではありません。

そこで今回の特集では、個性豊かな課外活動に熱中している学生たちにスポットライトを当てました。彼らがどんな想いで取り組み、またその経験をとおしてどのように成長したか、一人ひとりのストーリーを詳しく紹介します。

同じ神大生の活動を知ること、新しい一歩につながる気づきや学びをきくと得られるはず。すでに課外活動に取り組んでいる方も含め、ぜひ本特集を自分の世界をさらに広げるきっかけにしてください。

※1 神奈川大学「2023年度学生生活実態調査」より / ※2 神奈川大学公式 Instagram ストーリーズのアンケート機能を使用(実施日 2024年10月10日)

クイズサークルで日常が新鮮になりました！

競技クイズを行うインカレサークルに入っています。きっかけは受験期に見ていたクイズ系 YouTuber「QuizKnock」に憧れて、そのメンバーが所属しているサークルに入りました。今まで疑問にも思っていなかったことを、クイズをとおして詳細を知ることによって自分の世界が広がっていきます！物事を多角的に捉えられるようになり、日常のさまざまなことを新鮮に楽しめるようになりました。これからもっとクイズで知識を身につけ、結果を残していきたいです！

桑波田 康雅(くわはた こうが)さん
経済学部 経済学科 1年



母校で部活動のインストラクターをしています

母校で女子ハンドボール部の外部インストラクターをしていて、今年で2年目になります。前任のインストラクターの引退時に顧問の先生から誘われ、面白そうだと思い始めました。教える難しさや引率の責任の重さを実感し、顧問の先生方の偉大さを改めて感じています。選手たちの成長を間近で見られるのはインストラクターの特権です。部活指導の貴重な経験を大切に、今後も全力で努めていきたいです。

吉田 朱里(よしだ あかり)さん
国際日本学部 日本文化学科 3年



百貨店で社会人スキルを磨いています！

私は百貨店でアルバイトを始めて半年になります。上京した際、生活費を稼ぐためにアルバイトを探し、接客業に興味を持って現在のバイト先に応募しました。以前は飲食店で裏方の仕事をしていましたため、接客業は初めてでしたが、言葉遣いや電話対応、責任感の大切さを学びました。社会人として必要なスキルを身につけることができ、仕事への考え方も変わりました。特に、包装作業で百貨店ならではの技術を習得し、それがうまくできるようになった時はとても嬉しかったです。この経験をとおして成長を感じ、やりがいを見出しています。

大原 美羽(おおはら みう)さん
経済学部 経済学科 1年



憧れのあった世界に挑戦中です！

役者・モデルの活動をしています。カメラをやっている友達に撮ってもらったことがきっかけでした。最初はモデル活動がメインでしたが、演技をしてみたいという想いが捨てきれず、今はどちらにも挑戦中です。「もっとこうすれば良かった」と後悔することもあります。この活動とおして自分自身に向き合うことができるようになりました。どの現場もたくさんの方が関わって作品が作られていて、毎回とても緊張しますが、素敵なアイデアや想い、技術を持っている人たちとひとつの作品を作ることや、普段と違う自分になれることが毎回楽しくて仕方がないです！

有馬 好香(ありま よしか)さん
外国語学部 スペイン語学科 4年



研究 × カーレース

クラッシュを経験後、車のセッティングの勉強も始めた。「クラッシュ後、責任を感じるサポートチームを見て、任せきりにするのはよくないと思って。私もセッティングに対して積極的に意見を出し、一緒に試行錯誤します。いいタイムを出せたときの喜びもひとしおです」

カーレースとの出会い

かつてカーレーサーとして活躍していた父が、幼い私に自身のレース動画を見せてくれたのが最初の出会いです。「やってみたら？」とすすめてくれましたが、当時は興味をもてなくて。でも、免許取得のために初めてハンドルを握ったときに、「運転って楽しい！」と感じました。そこからカーレースへの関心が高まり、挑戦を決めたんです。初めてサーキットを走ったときのワクワクは今も忘れられません。

平日は学業優先で、練習できるのは土日のみ。月に5回ほどサーキットへ通う。「練習効率を上げるべく、平日も車載カメラで撮った練習映像を見て研究しています」

My machine!

車やヘルメット、ユニフォームのデザイン変更を計画しているそう。「今はまだ真っ白ですが、好みのデザインに変える予定。個性を表現したいです！」

カーレーサーの多くは男性で、男女比は9対1程度。数少ない女性レーサーとして一歩の「負けん気」を武器に奮闘中！

profile



やはぎ 矢作 ゆりなさん 工学部 物質生命化学科 4年

練習を重ね、トラウマも克服。カーレースをとおしてもっと負けず嫌いになりました！



食品美容科学研究室に所属する、工学部4年の矢作さん。「美容に関する研究をしたい」と同研究室を選び、廃棄される未熟マンゴーから「未熟マンゴーの美白作用に関する機能的解析」をテーマに研究に励んでいる。

「自分の研究が食料廃棄解消の一助になったり、商品化につながったりしたらうれしいです」

ちなみに、卒業後は企業の品質管理部門に就職するという。

そんな矢作さんが取り組む課外活動は、2年前から始めた「カーレース」。競技車でサーキットを走り、予選では決勝への出場権とそのスタート位置をかけてタイムで戦い、決勝ではコースを10周走って順位を競う。車種やレーサーの実績などに応じてクラスが分かれており、矢作さんが乗るのは、公道でも走れる車だ。それでもサーキットでは最高で時速180kmもの速度で走り、ライバルとの接触やクラッシュも珍しくない。

矢作さんはそんなカーレースの魅力について、いいタイムを出せたときの格別の喜びに話すと話す。

「ハドな競技ではありますが、その先には代えがたい達成感があります」

一方でレースは楽しいことばかりではない。2023年9月と2024年6月にはクラッシュを経験し、車は大きく破損。幸い大きなケ

interview

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

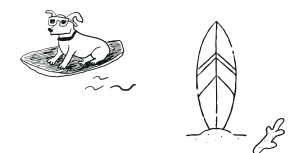
怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

怪し、車は大きく破損。幸い大きなケ

フラダンス × サーフィン



サーフィンにおいてショートボードとロングボードでは体の使い方や表現方法が大きく異なり、両部門で同時優勝するのはまさに快挙。「両方に取り組むことでより波への理解度が深まると感じています」



profile



すがわ けい
砂川 圭貴さん 経営学部 国際経営学科 4年



フラダンスを極めるには、日々の練習だけでなく、ポリネシア文化の理解に努めることも必須。その一環として、一昨年にはハワイで行われるフラの祭典「メリー・モナーク・フェスティバル」を見学したそう。

フラダンス&サーフィンとの出会い

フラダンスと出会ったきっかけは、母と姉。2人がフラダンスをやっていたので、幼少期から身近な存在でした。私自身も、小学校3年生のときに姉を追いかける形で教室に入会しています。一方のサーフィンは、父の趣味でした。地元の藤沢にはサーファーが多いこともあり、物心がついた頃から「夏の遊び」のひとつになっていましたね。本腰を入れて取り組むようになったのは、中学時代。友人に影響を受けてより夢中になっていました。



フラダンスで最も楽しい瞬間は、一緒に踊る仲間たちと息がぴったり合ったとき。「練習で高めてきた一体感を本番で発揮できると、最高の気分です！」



interview

経営学部4年の砂川さんは、幼少期から継続してフラダンスとサーフィンに取り組んでいる。フラダンスでは、「KANE OCEAN」(男性が踊るフラダンス)全日本大会で2022年に準優勝、昨年は3位に入賞した。サーフィンでも、2023年の「全日本学生サーフィン選手権」でショートボードの部とロングボードの部でダブル優勝を果たしており、実力は折り紙つきだ。

2つの課外活動を高いレベルで楽しむ砂川さんに、その魅力を聞いた。「フラダンスの魅力は、異文化に触れられることです。フラダンスは、ポリネシアの先住民が紡いできた文化のひとつ。踊るうえでは、技術以上に理解やリスペクトが大事で、私も、踊らせていただくという意識で取り組んでいます。」

そしてサーフィンの魅力は、人とながれることだと感じていますね。海に集うサーファーは、年齢も職業もさまざま。そんな人々と一緒に波を待っていると、同世代の友人とは話さないテーマにたくさん触れられて、世界が広がるんです。」

課外活動で世界が広がったと話す砂川さん。実際に2年前には、経営者の知り合いの助力を受けつつ、友人とサーフィンを立ち上げています。

「経営学部ということもあり、開業や運営に携わることで学びがあるだろう」と思い、挑戦しました。就職に伴いシゴキからは卒業しますが、学生ではなかなかできない経験を積んで、友人や関係者には感謝しています。」

そんな砂川さんは、フラダンスとサーフィンを通じてどう成長したのだろうか。

「2つの活動から学んだのは、自分を構成し、支えてくれるすべてをリスペクトすることの大切さです。具体的には、自然や文化、そして仲間、家族への敬意を常に忘れないようにしています。」

それから、相手と調和する力も養えました。例えばフラのチームダンスでは、周りをよく見て、相手の気持ちや考えを察する必要があります。真の意味で調和することを目指しています。」

最後に砂川さんに聞いたのは、今後の目標。フラダンスとサーフィンは、この先もライフワークとして変わらずに続けていくという。

「これからも長く楽しみながら、それぞれの魅力を多くの人々に発信していきたいです。そして年齢を重ねたとき、若い人たちに『あのおじさん、うまくてかっこいい』といってもらいたい(笑)。文化を背負う意識をもって取り組んでいきます！」

サッカー × 野菜作り



10月中旬の取材時には、10種類を超える野菜を栽培中。さつまいもや白菜、里芋、長ネギなど、秋冬に旬を迎える野菜たちがたくさん！



profile

いはら しんじん
井原 心人さん (左)
法学部
法律学科 2年

あめみ らい
雨宮 礼さん (右)
国際日本学部
国際文化交流学科 3年



畑の運営にあたっては、部員たちだけでなく、学外の関係者との連携も欠かせない。「年齢が離れた方たちとやりとりする機会も多く、特にコミュニケーションの面で勉強させてもらっています」(井原)

必要な道具や設備は、サッカー部の活動に共感し、支援してくれる方々から提供されたものも。耕作についてアドバイスをいただくこともあり、まさに地域と一丸となって活動を展開している。



監督からのメッセージ



おおもり ゆうぞぶろう
監督 大森 西三郎さん

学生たちはこれまで「保護者や地域、学校などに守られる存在」として生きてきました。しかし、彼らは間もなく社会に出て、今度は「守る側」に回らなければなりません。そのときに一人ひとりが社会人としてきちんと責任を果たせるよう、畑の活動も社会活動のひとつという意識を培い、競技や未来社会で活かしてほしいと願っています。実際に井原と雨宮は、地域の大人たちとコミュニケーションをとりながら、自分たちの頭で考え、判断し、畑を守るまでに成長しました。これからも、この畑が多くの部員たちの人間力を伸ばしてくれと信じています。

interview

サッカー部では2022年春から横浜市緑区に約600坪の休耕地を借り、部員たちが耕作に取り組んでいる。育てた野菜は部員自らが食べたり、地域の方々にふるまわれることもあるという。

井原さんと雨宮さんは、そんな畑での活動をリーダーとして牽引。井原さんが学外の関係者との連携を含めた運営をメインで担い、雨宮さんはそれをサポートしているそう。

しかし、授業と練習に追われる毎日のなかで畑に通うのは大変ではないのだろうか。

「大変に感じる日がないわけではありませんが、こんな機会が誰にでも与えられるものではないはず。今ある環境に感謝して一生懸命に取り組む、人間としての成長につなげたいと思っています。」

その姿勢を大切にしながら、最近自分のなかに「責任感」が生まれました。日頃から支援してくれる地域の方々の期待に応えられるようにと、常に考えています」(井原)

「正直なところ、最初は、やらされている感もありました。でも、雑草だらけだった土地が畑として整い、野菜を植え、収穫する…そういう段階を踏むうちに、モチベーションが高まっていったんです。」

また2024年3月には『神奈川大学SDGs Award』を受賞

し、たくさんの方々に活動を評価してもらえて、さらに前向きになれました」(雨宮)

責任感と意欲をもって耕作に取り組む2人。畑での活動とおして、自身の変化を実感しているという。「人目につきにくい仕事」の存在や大切さに気づけたことは、大きな学びです。野菜を収穫できるのは、誰かが日々水をやり、雑草を抜くから。そういう「地味だけれど大切な積み重ね」を徹底した先にこそ成果があることを深く理解できました。この学びは、サッカーでも、卒業後の人生でも、きっと自分を支えてくれると思っています」(井原)

「最大の变化は、継続力を養えたこと。一面雑草だった畑を、地域の方々と交流を生む場所にまで成長させた経験をおして、続けることの大切さを学べました」(雨宮)

そして最後に聞いたのは、畑のこれからについて。雨宮さんは「さらなる発展を目指したい」と話す。

「育てた野菜の販売にはすでに取り組んでいます。が、今後はもっと販路を拡大したいです。活動の幅がより広がれば、畑のあり方がもう一歩先に進むのではないかと、実現のために現状の細かな見直しと丁寧な計画が必要でしょうから、その過程でもさまざまなことを学んでいきたいです」(雨宮)

暑い日も寒い日も、耕作に向き合い続ける。サッカーだけでは養えない「人間力」を磨けています！

神大にある気になる団体を集めました！
各団体の魅力や活動内容、そこで学生が得た学びをご紹介します。

歴史のある部活動



profile

神奈川大学体育会
山岳部
部員数 23名

自分たちの「やりたい」を叶える

山登りやキャンプなど、とにかく自然が好きなメンバーが集まっている山岳部。登山メインのアルパイン部門と、クライミング ボルダリングメインのクライミング部門があり、創設から94年という歴史もあつて、監督や幅広い年代のOBがさまざまな形で今でも現役部員を支えている。

山行の計画から実行までのほとんどを学生主体で行っているため、先を見越して行動する力やリーダーシップが自然と身についていくという。初心者が多いため、一人ひとりが意見を出し合い、協力して進めていくことが重要になってくる。

また、準備には多くの時間と労力がかかる。山の中ではテント生活をはじめ、普段の生活ではなかなか経験できない苦労の連続だが、山頂の景色は、実際に山に登った人にしか味わえない素晴らしい景色があるという。仲間と共に支え合いながら無事に山行を成功させられた時は、大きな達成感を味わうことができる。

2024年度 新設されたサークル



profile

Fashion制作
部員数 12名



私がブランド、私だけのふく

新規サークルの「Fashion制作」は、「服作りに興味がある人」「服をとおして自分の個性を表現したい人」「服作り以外にもFashionに関心がある人」たちが集まっている。とあるきっかけで服作りを体験したことからは、「Fashionは作ることから始まる」と気が付き、サークルを立ち上げたという部長の安勝賢(アンスンヒョン)さん。立ち上げ当初は作業環境に限界があったり、服作りの熟達者がいないため、学んでいく大変さがあつたという。

活動をしていくなかで、「自分の体型にはどの服が似合うか」「着方によって印象がどのように変わるか」「どの服が長持ちする服であり、値段が高くなるのか」など、普段の学業では得られない学びがあつたり、服作りをとおして人と関わっていくことは、自分を成長させる良い経験になっている。また、新規サークルのメリットとして、各々が目標を決めて挑戦する機会が多く、主体的に取り組むことで、自分の意見が反映される楽しさを感じることができている。現在は2024年度後学期の目標に「サークルで着る活動服を作ろう!」を掲げ、日々精力的に活動中!

ユニークな活動を行うサークル

profile

神奈川大学
サバゲーサークル
部員数 50名



si vis pacem para bellum
「汝平和を欲さば、戦への備えをせよ」

サバゲー(サバイバルゲーム)とは、エアソフトガンを使用して撃ち合いをするゲーム。基本的にはサバゲー用のフィールドで行われる対戦型のスポーツだ。

サバゲーの魅力は、まずそのスリルと達成感にある。作戦を立てて仲間と協力し、敵をうまく倒せたときの爽快感は他では味わえない楽しさだという。ただ撃ち合うだけでなく、相手の動きを読んだり、状況に合わせて柔軟に動くことが求められるので、体だけではなく頭も使うスポーツでもある。また、初めて会った人とも作戦を共有して連携するので、自然とコミュニケーション能力や社交性も身についてくる。

サバゲーを通じて新しい友達ができ、体力もついて「二石二鳥。サバゲー経験者からちよつと気になる初心者まで、いろいろな人が気軽に集まり、楽しさと学びがギュッと詰まったやりがいの感じられる団体となっている。「安全に楽しくサバゲーを楽しむことが一番!他大学やいろいろな団体との交流戦を通じて、サバゲーの魅力をどんどん広めていきたいです!」

学生だけじゃない！
教職員の課外活動

日々の業務に加え、さまざまな課外活動に取り組んでいる教職員の皆さんをご紹介します。



profile

野球部
神奈川大学
教職員

部員数
34名
マネージャー
3名



学生の皆さん
からの挑戦を
待っています!



野球以外の時間も楽しく過ごしたいという人が多く、試合後の懇親会などの集まりでもとても楽しい時間を過ごしています!

有機化学や超分子化学などの
授業を持っています



profile

コントラバス演奏
木原 伸浩 教授
理学部理学科(化学分野)



庶務課や教務課を経験後、
現在はキャンパス整備の
業務をしています



profile

パワーリフティング
鈴木 涼平
総務部施設課

※パワーリフティング…階級別でスクワット、ベンチプレス、デッドリフトの3種目の最大挙上重量の総計を競うスポーツ

筋力トレーニングを趣味としている鈴木さん。2023年よりパワーリフティングの大会に参加している。
ジムでの筋力トレーニングは週3回行っており、体重コントロールのための食事やストレッチ等のケアも怠ることはない。「パワーリフティングは全てが数字に基づくので、目標が立て易く、達成時の充実感が高いんです」。ベンチプレスは体重の2倍以上、デッドリフトは3倍以上の重量で試技でき、自身の得意種目となっている。大学時代に運動生理学を研究したことがきっかけでこの種目にのめりこんだ鈴木さんは、学生にこうエールを送る。
「私は大学時代に打ち込んだことが今も人生の支えになっています。みなさんも、何でも良いので一生懸命に打ち込めることを見つけてください。人生の支えになるはずですよ!」

コントラバスを弾き始めたのは高校1年生の時。歓迎演奏会で勧誘されたことがきっかけだ。主に弾いているジャンルはクラシック。大学ではオーケストラに入りプロの先生に基礎を徹底的に叩き込まれた。

コントラバスの最大の魅力は重低音と、音の柔らかさ、そして音域の広さにある。コントラバスの音の上にオーケストラの音が載っていると「オーケストラを支えている」という喜びを感じる。音楽は単純に楽しいです。弾くのも楽しいし、聴くのも楽しい」と木原教授。大学や学会以外にコミュニティを持つことは、新しいアイデアや思いがけない人的交流にもなる、と語る。木原教授にとってコントラバスは、人生を豊かにするだけでなく授業や研究にもプラスとなる、なくてはならない存在だ。

センパイに 会いたい

SENPAI
file

山形県庄内地方の魅力を伝える
マルチタレント

堀 綾乃さん（ほり あやの）
山形県出身。2008年3月経営学部卒業。自身の地元である山形県庄内地方の文化を広く発信することを使命とし、「ナマリーポートマン」の名前でマルチに活動。「庄内地方の盛り上げ役」を担い、地域の活性化を目指している。



MY TURNING POINT

学生時代は、神大スタイル学生編集スタッフとして活躍。現在の仕事にもつながる貴重な経験だったと振り返る。
「学生編集スタッフの活動拠点は横浜キャンパスで、私が通っていた湘南ひらつかキャンパス（当時）には編集スタッフをしている学生はいませんでした。職員の方に相談して参加させてもらいました。
そうして自ら一步を踏み出したおかげで、たくさんの素晴らしい経験ができましたよ。なかでも印象的なのは、部活やサークルの潜入取材。ボクシング、チャアードリングなどに挑戦しました」



手前の紺色ジャージを着ているのが当時の堀さん

憧れの都会から戻り、改めて地元の魅力を実感。
「ナマリーポートマン」の名前でライフワークとして庄内の文化を盛り上げていきたい！

山形県庄内地方の魅力を発信すべく、「ナマリーポートマン」の名前で活動する堀綾乃さん。企業や学校イベントでの登壇・司会、観光ガイドなど、マルチに活躍している。2023年には楽曲「おナマリなさい」をリリースし、そのYouTube動画は32万回再生を超えた（2024年11月時点）。

華々しい活躍を見せる堀さんだが、その過程には苦労や悩みもあったという。

「大学卒業後、東京の企業に就職するも、激務で体調を崩し、わずか1年で山形に帰ることになりました。帰郷後は、事務職員として農業系団体に就職。ふとした時に「私の人生、これでいいのか」と感じるようになったんです。

そんな私に転機が訪れたのは、2020年のことでした。広報部へ異動し、農家の方々の取り組みを取材し記事にする担当に。そのうちに「農家のみなさんのことを、もっと知ってほしい」と考えるようになり、ナマリーポートマンの名前でInstagramの運用をスタート。庄内の農業について個人で発信しはじめました」

さらに「庄内弁を話さない子どもが増えていることに気づいて。できることはないかと考えていました」と、語る。そうしてナマリーポートマンは、農産物や方言を含む「庄内の魅力」を総合的に発信する存在となった。

活動開始後、知名度は順調に上昇。楽曲「おナマリなさい」のリリースをきっかけに活動の幅は広がり、現在の活躍に至る。

そんな堀さんの目標は、過疎化が進む庄内に活気を取り戻すことだ。

「地元の人々を笑顔にすること、多様な方法で庄内の文化を外部に発信すること。その両面から盛り上げていきたいと考えています。それから、やりたいことをやる私の姿を地域の若い世代の方々に見せることで、彼らの挑戦を後押ししたいと思っています」

最後に堀さんは、神大生にもメッセージを寄せてくれた。「神大生のみなさんにも、さまざまなことにトライしてほしいです。ネットにあふれる情報よりも、ぜひ自身の直感を大切にしてください。どんどん、挑戦していいの〜！（どんどん、挑戦していいの〜）」



REPORT

ゼミ名称	上田正基ゼミナール
学部・学科	法学部 法律学科
研究テーマ	刑事法学

法律学科では、2年生から3年生にかけて刑法の授業を履修。そのため3年生までのゼミでは、その授業の内容に沿って復習や応用に取り組む。学びの集大成となる4年生は、これまでに学んだ刑法を幅広く活用し、より複雑な事例を検討することに挑戦する。

授業はもちろん、大学の外での交流も。
多様なコミュニケーションをとって
視野を広げられる



▲ PHOTO: 吉原大翔(自治3)

実は私、
オリックスの
大ファン
なんです！

意外な一面を発見！？

神戸の出身で、筋金入りのオリックス・バファローズファンです。帰省時や交流戦の期間中は、できるだけ球場に足を運んでいますよ。ちなみに、セ・リーグでは横浜DeNAベイスターズを応援。日本シリーズ優勝おめでとう！



▲ 授業で使用するテキスト。
六法は法学部生のシンボルだ。

社会の秩序を守るためのルールである、法律。上田正基ゼミでは、そのなかでも犯罪と刑罰について規定した「刑法」を学ぶ。
「架空の事件やニュースで取り沙汰されている実際の事件を題材に、当該の行為はなぜ犯罪になるのか」といったことを検討するのが基本のスタイルです。検討にあたっては、まず担当のグループが見解を発表し、その内容をふまえて全員で議論を深めていきます」
そうして多くの事例を検討するなかで、刑法の知識はもちろん、プレゼンテーション能力や相手を説得するスキルも磨けるだろう。これらは、法律と関係のない領域でも役立つ力だ。さらに上田先生は、法律を学ぶ意義のひとつに「さまざまなルールを理解し、活用できるようにすること」があると話す。

.....

であり、ルールは社会のいたるところに存在するからだ。
当ゼミでは、法律を理解し、使える力を身につけることを最終目標にしています。その力は、例えば一般企業に就職しても、会社のルールに基づいて問題を解決しなければならぬ場面で役立つはず。ルールに基づいてすべての関係者が合意できる「落としどころ」を見つける、相手が納得できるよう働きかける……ゼミで培った力で道を切り開いてほしいですね」
そのためには、自分で法律を読み解き、さらに自身の解釈の正当性を確認する経験を重ねることが必要だ。
「法律を使うレベルを目指すにあたり、仲間との活発な議論は学びの要です。そのため私は、学生による発信を端から否定することはありません。知識不足ゆえに表現が適切でなくても、思いつきでもいい。自分の頭で考えたことを発信して、仲間の意見を吸収して、成長していいです」

気軽に意見を交わし合える
雰囲気の良いゼミです

▶ Voice _01

授業ではみんなで活発に議論を交わすので、自分とは異なる意見に触れて気づきを得られることも多く、理解が深まりやすいと感じています。上田先生も話やすい雰囲気、授業中はもちろん、授業後も学生たちと談笑していることが多いですね。

▶ Voice _02

1年生のときに横浜地方裁判所で刑事事件の裁判を傍聴した際、目の前で繰り広げられるやりとりで圧倒され、刑法を深く学びたいと考えるようになりました。刑法への理解が深まることで、ニュースの捉え方も変わると感じています。



学生の声

こうぶち あや
河瀬 彩さん
法学部 法律学科 4年



学生の声

のもと まりな
野本 真理菜さん
法学部 法律学科 4年



仲のよさもゼミの魅力。食事も定期的に開催しており、六角橋周辺には行きつけのお店が複数あるのだとか。「私自身、大学時代には飲み屋に居合わせた“人生の先輩”から教わることがたくさんあったので、学生から要望があればなるべく連れていきたいと思っています」（上田先生）

CLUB ROOMS

クラブ・サークル紹介

PICK UP CLUB

Well done

CLUB DATA 創設 | 1997年 部員 | 43名

週に1回、神大寺地区センターで活動している。
みなとみらいキャンパスから通う学生も。



introduced by...



会長

工学部物質生命化学科 3年

谷口 友介さん Yusukey TANIGUCHI

大学に入学したとき、なにか新しいことを始めたいと思い、家族以外の人と料理することに魅力を感じて入会を決めました！得意料理は肉じゃが。家庭の味の再現を目指しています！



副会長

工学部電気電子情報工学科 3年

大谷 和士さん Kazushi OOTANI

今後一人暮らしをする時が来たときに、料理のスキルがあったら役立つなと思いました。当時の副会長から初心者でも入会できると聞き、やってみよう！と決意。母から教えてもらったコンソメベースのロールキャベツが得意料理です！



次期会長

人間科学部人間科学科 2年

浅井 瀬成さん Sena ASAI

大学進学タイミングで一人暮らしを始めました。料理の技術やレパートリーを身に付けて入会。得意料理はハンバーグで、デミグラスソースも自分で作りますよ！



サークルの一大イベントは、代々続く神大フェスタでの豚汁の提供。全員で準備に取り組み、途中で材料が足りなくなるほど好評だ。

料理は4〜5人ほどのグループに分かれて取り組む。メンバーは毎回異なるため、部員全員との距離が縮まりやすい。



初心者でも安心して楽しめる、温かい空間を目指しています！

友だちと食事をするだけでは味わえない

「一緒に料理をする時間」が仲間との距離をグッと縮めてくれる



01

野生のニホンザルが目の前に!?

「高崎山自然動物園」。野生のニホンザルを間近で観察することができる日本で有数の自然動物園。餌やりの時間になると、どこからともなく多くのサルが寄せ場へ集まり、その光景には大分市民のみならず、来園者も釘付け！すぐ近くには水族館「うみたまご」もあります。



許諾番号:大分県ホーバー第45号

大分空港と大分市を結ぶ日本唯一のホーバークラフト

国内で唯一のホーバークラフトが遂に2024年11月30日に復活（別府湾周遊コースのみ）。アクセス改善を目的に、空港から市内への時間短縮を図ります。現在は高速バスで約1時間かかりますが、大分空港までなんと約30分で結ぶ予定です。



03

大分グルメの定番「りゅうきゅう」

とり天、しいたけ、だんご汁、やせうま、とりめし、にら豚…。大分には美味すぎるご当地グルメがたくさんありますが、老若男女に愛されているのが「りゅうきゅう」。地元でとれた新鮮な魚を、醤油、酒、みりん、ごま、しょうがでつくるタレと和えていただく、最高の料理。

02

TRIVIA ぞ自慢トリビア

「大分」なんて読む?大分県民の見分け方。

「大分」。この文字を見た時に、「だいぶ」とすぐに読めない人は大分県民か大分にルーツがあること間違いありません(笑)「大分、良くなった?」

癒しも、美味も、ぜんぶ揃う! “ちょうどいい街”大分市へ

「おんせん県」で有名な大分県の中心部、大分市。癒しを求めてやってくる観光客も多く、卒業旅行でも人気の街。もちろん、温泉だけではありません!関あじ・関さばといった大分市が全国に誇るブランド魚やとり天、だんご汁、やせうまなど大分ならではのグルメも盛りだくさん!暮らしやすい都市の環境と海・山・川・温泉の自然の恵みをバランスよく兼ね備えた“ちょうどいい街”!近年は、大分県出身の指原莉乃さんや森七菜さんの活躍もあり、知名度もアップしてるはず!忙しい毎日をお過ごしの方さん!癒しを求めて大分に行ってみては?

法学部法律学科 4年

田原 嵩己さん SHUKI TAHARA

高校1年生まで大分県大分市で過ごしました。大学では法学部のGPP(Global Perspective Program)に積極的に取り組み、英語の学習にも力を入れてきました。祖父母が住んでいるので、長期休みには大分市に帰ることも。大分県だけでなく、いろいろなところへの旅行が普段からの楽しみです。

方言でひとこと

“みんな、大分に来ちよくれ!”

みんな、大分に来てね!

大分県 大分市

出身地はココ!

from JAPAN

中華人民共和国 江蘇省 南京市

from WORLD

出身地はココ!

母国語でひとこと

“牛 (ニユー)”

「すごい!いいね!」という意味で、誰かを褒める時に使うフランクな表現です。友人とSNSでやり取りをするときには、動物のウシの絵文字で表現することもあります!

法学部 法律学科 2年

施 宝明さん SHI BAOMING

5年前、家族と日本を訪れた際に、横浜の街に心惹かれました。また、中国でも人気の日本ドラマ「リーガルハイ」や「99.9」がきっかけで法律に興味を持ち、横浜の中心にある神奈川大学の法学部に進学を決めました。趣味はサッカー観戦と写真撮影で、最近は山登りにもハマっています!

SNSで人気急上昇! 産業都市の近くに位置する、歴史が息づく街

南京市は中国の江蘇省西南部に位置しており、上海などの産業都市からも近い街。街の人は力強く、サバサバとした性格の人が多です。また、皆さんも社会科の授業で一度は聞いたであろう、孫文の陵墓があることでも知られています。陵墓の周辺はリゾート地になっており、近年SNSで人気急上昇中。世界中から多くの観光客が訪れています。

中国の年明けは毎年違う!

中国の新年は農暦新年といい、日本のように1月1日と決まっておらず、年によって日にちが異なります。神大の定期試験期間に新年を迎えることもあります。



01

辛亥革命の中心人物孫文の陵墓「中山陵」

標高448メートルの紫金山にある「中山陵」は、観光地としても人気のスポット。入口を抜けて長い石段を上っていくと、頂上からの眺望はもちろん、途中の景色も絶景なんです!長い石段を上るので、動きやすい格好で来てくださいね。



私たち「南京ダック」が大好きなんです!

南京市に住む人たちは鴨肉をよく食べるのですが、その中でも人気の料理が「南京ダック」です。一般的な、鴨の皮だけ包んで食べる北京ダックに比べ、お肉も余すことなく食べるのが南京流。



「南京博物院」で中国の長い歴史を体験

中国三大博物館のひとつで、中国の歴史と文化を深く知るにはおすすめの場所です。中国で最初に建てられたというこの博物館には、宋・元時代の珍しい品が多く所蔵されています。王朝時代の都がおかれた南京の歴史に触れてみてください!

02

03



経済学部
経済学科 1年
大原 美羽さん
大きくて使いやすく、デザインもお気に入りです。
直感でいいなと思いました！



法学部
法律学科 2年
栗原 若菜さん
形が好みでネット通販で見つけました。A4
が入るところや肩掛けできるところが好き
です。



理学部
化学科 2年
柳井 勇飛さん
黄色が好きで、このキャリーバッグを愛用してい
ます。学外ダンス部の撮影で使用した衣装など
を入れています！



法学部
法律学科 2年
知念 虹花さん
好きなバンドのライブグッズで友だちと
お揃いです！意外とどんな格好でも合わせやす
いです。



経済学部
経済学科 1年
中川 歩紀さん
リユースショップで購入しました。自然系の色
使いが気に入って毎日使っています。



外国語学部
スペイン語学科 4年
有馬 好香さん
たくさん入って形もかわいいのがお気に入り。メッ
シュの部分個性的で、他の人と被らないバッグ
を選びました。



経営学部
国際経営学科 1年
高野 渉さん
オレンジが好きで、おしゃれなメッシュのデザイン
も気に入っています！



経済学部
経済学科 1年
桑波田 康雅さん
シンプルなデザインが気に入って、兄弟と一緒に
買いに行きました。

経営学部
国際経営学科 2年
中山 美藍さん
デザインが特徴的なので誰とも被らないところ
がお気に入りです！いっぱい入ります！

毎日キャンパスですれ違うあんな人、こんな人。近い
ようで遠い、そんな彼ら、彼女らの、キャンパスライフ
を覗いてみたいありませんか？
COLORSは、等身大の神大生にスポットを当て、それ
ぞれのライフスタイルに密着。「神大生がもっと好きに
なる」「キャンパスライフがもっと楽しくなる」そんな願
いも込めて作成しています。



外国語学部
英語英文学科 2年
太田 陽菜さん
色に一目惚れしました。コーディネート
の差し色に使っています！



法学部
法律学科 2年
植村 萌々子さん
「2wayバッグ」が購入の決め手！リボンで紐
の長さを調整して、肩かけか斜めがけパッ
グに変更できます。



外国語学部
中国語学科 2年
中村 結唯さん
チャックがあるので通学も安心。内ポケット
が2つあって大容量で使いやすいです。



経済学部
経済学科 1年
稲葉 悠斗さん
旅行に行くのに大きなリュックが必要で買い
ました。たまには黒以外の色を買いたいと思
い、この色を選びました。



経済学部
経済学科 1年
日下 祐希さん
横須賀の古着屋で見つけました。見た目
の派手さとたくさん収納できるのが気に入
っています！

経済学部
現代ビジネス学科 4年
高野 風沙さん
3年くらい使っています。形とサイズがちょ
うど良くて使いやすいです。



経済学部
経済学科 1年
中村 惟識さん
大学に入学するときに購入しました。コーデ
ィネットしやすいものを選びました。



外国語学部
中国語学科 3年
角野 茉夕さん
差し色に良いと思い、ネット通販で購入しました。
小ぶりに見えますが、意外と収納力があり、お弁当
も入ります！



外国語学部
中国語学科 2年
富樫 日那子さん
ビョウ柄が気に入って使っています。
エコバッグなのに丈夫でめっちゃ入ります！

COLORS

[カラーズ]

神大生の気分を上げる！
通学バッグ特集
『JINDAI BAG COLLECTION』
WEBでは、まだまだたくさんの
神大生を紹介しています！





Instagramをフォローして、最新情報をチェックしよう!

いつでもスマホでチェックできるよ!

お知らせ

『神大スタイルWEB』では、定期的にコンテンツを更新中!

神大スタイルのInstagramなら、ほかでは見られない写真も公開中! フォロワー限定のプレゼント企画も不定期開催予定。

CHECK IT!

神大スタイルWEB
style.kanagawa-u.ac.jp

FOLLOW ME!

神大スタイル公式Instagram
@jindaistyle_magazine_official

あなたの原稿や写真が誌面に載るかも!?

神大スタイル 学生編集スタッフ募集!

「神大スタイル」をいっしょにつくってくれる仲間を大募集します!

企画の立案や取材でのインタビュー、写真撮影など、興味があることにチャレンジしませんか?

◆お申込みはこちらから
※締め切り 4月14日(月)

1年生大歓迎!

※お申し込みが一定数に達した場合には、締め切り前に募集を終了する可能性があります。



神奈川大学通信 JINDAI Style 編集専門委員会

委員長

関 ふた子(法学部教授)

委員

角田 光隆(法学部教授)
権 純篤(経済学部助教)
津村 将章(経営学部准教授)
チック ソニア(外国語学部准教授)
山根 麻紀(国際日本学部准教授)
渡部 かなえ(人間科学部教授)
白井 直樹(理学部准教授)
翁 嘉華(工学部教授)
白井 佑樹(建築学部特別助教)
野崎 勇一(化学生命学部教授)
森田 光(情報学部教授)
田島 睦造(企画政策部 経営政策・広報担当部長)
飯塚 渉(企画政策部 経営政策・広報担当次長)
中嶋 健一(広報課長)
椎野 和也(広報課長補佐)
越後屋 あゆみ(広報課)
渡邊 悠(広報課)
胡藤 裕宣(学生課)
市川 大介(学生課)

学生編集長

山崎 夏美(日本文化3)

学生広報担当

石川 悠(日本文化3)

田原 高己(法律4)
施 宝明(法律2)
森 紫織(法律2)
藤井 彩乃(法律2)
吉原 大翔(自治3)
刈谷 和美(経済3)
阿部 怜奈(経済2)
星野 美鈴(経済2)
河野 健吾(経済1)
三浦 知樹(経営3)
三好 奏音(国際文化4)
大崎 隼輔(日本文化3)
桑島 暖(日本文化3)
徳永 広準(日本文化3)
藤原 陽菜(日本文化3)
小河原 莉子(日本文化1)
松本 えり(日本文化1)
白井 俊寛(経営工学1)
佐藤 友梨(先端情報2)
遠藤 みづほ(理学部前1)

cover story 表紙の人



人間科学部 人間科学科 4年 佐藤 太陽 さん(右)

人間科学部 人間科学科 4年 庄子 雄大 さん(左)

2024年プロ野球ドラフト会議において、神奈川大学硬式野球部として2021年以降の指名を受けた、硬式野球部の佐藤さんと庄子さん。部内ではキャプテン、副キャプテンを務めるおふたりに、チーム内でのお互いの印象を聞いてみました。

プレーでチームの先頭に立てくれる、みんなのお手本ですね。副キャプテンとしても、自分の至らないところをカバーしてくれました。今後チームが強くなっていくために良い刺激を与えてくれた存在だと思います。(佐藤さん)

1年間、みんなを引っ張ってくれた頼りがいのある存在です。彼のキャプテンとしての想いは、今後チームを支えていく下級生にもしっかり伝わっていると思います。(庄子さん)

編集後記



大学生活にとって大切な勉強以外の時間の過ごし方、様々な課外活動に取り組む学生や教職員の姿を特集しました。これからの大学生活のヒントを得たり、卒業するみなさんが、思い出を振り返るきっかけとなつたでしょうか。貴重な時間をどう過ごすのか。熱心に何かに取り組み、挫折なども乗り越えながら大切な仲間をつくれるのか。これは、一生、自身に問い続ける質問。沢山のキラキラを、素敵な笑顔が満載の月号で見つけてみてください。

編集専門委員長/関 ふた子(法学部教授)

リアルな神大生の声を聞きたい!

KU GRAFFITI VOL.84

ケーユーグラフィティ



Question

授業以外の時間の過ごし方は?



撮影・学生編集スタッフ 吉原 大翔 / 刈谷 和美 / 三浦 知樹 / 桑島 暖 / 藤原 陽菜 / 山崎 夏美 / 佐藤 友梨

JINDAI SPOT LIGHT

keywords



学生消防団員の経験とゼミでの学びから
防災ボランティアサークルを立ち上げ、
地域の期待を背負い、活動の拡大を目指す。



法学部 自治行政学科 4年

わかやま しょうた

若山 翔太 さん

ひとつでも多くの命を守るために「今の自分にできること」を探す

火事や災害から人々を守るために活動する「消防団」。実は近年、その団員数の減少や高齢化が深刻な問題となっている。若山翔太さんは、そんな危機的状況を改善すべく立ち上がった。

若山さんは、1年生の9月に消防団に入団。地域貢献活動をしたいと考えていたところ、先輩からの紹介で「学生消防団員」の存在を知った。

「学生消防団員は、消防団の取り組みや火事に関する情報発信を行ったり、消防士の後方支援を担ったりします。また、毎年7月に開催される“ポンプ操法大会(消防器具の操作技術を競う大会)”への参加も代表的な活動です」

学生消防団員として活動を始めた若山さんが「消防団の課題」について考えるようになったきっかけは、ゼミの授業だったという。

「公共政策の研究で近年の消防団が抱える課題を深く学び、当事者である自分

にできることを考えるようになりました。そして、消防署からも後押しを受け、学生消防団員の仲間たちと防災ボランティアサークルを立ち上げたんです」

サークルのおもな活動は、防災啓発活動だ。たとえば昨年11月に横浜キャンパスで催された「防災フェア」では、参加者に傷病者の搬送方法をレクチャーした。

「今後は学外イベントへの参加や、学生寮での救命講習を計画。消防署と連携しながら、ひとりでも多くの方に“命を守るための知識”を伝えていきます」

若山さんは卒業後、東京消防庁に入庁する。消防団とサークルでの学びを活かし、将来的には救急隊員として活躍したいそうだ。

「ゼロからサークルを立ち上げ、消防団では班長の職を経験し、リーダーシップを磨けました。そうやって学生時代に成長を実感できたことは、大きな収穫。卒業後も挑戦する姿勢を大切に、多くの人を救える隊員を目指します!」

